

掬水

きくすい

題字・佐藤重義

第 51 号

令和6年3月23日発行

〈事務局〉

秋田市手形学園町1-1

秋田大学教育文化学部

同窓会旭水會 内



再起動

秋田市退職校長会 副会長 高田 均

今日、玄関先の雪かきをしていると、鳥が編隊を組んで飛んでいた。

以前、森林伐採や環境汚染、越冬地の環境変化、地球温暖化等の影響で世界的に渡り鳥が減少する異常事態が発生しているとの記事に触れたことがあったが、心なしか今年は例年に比べ渡り鳥が少ないように感じる。

白鳥は、冬になるとエサを求めてシベリアより温かい北海道や東北へ向けて約3,000kmの旅をし、春になるとまた戻っていく。ちなみに、日本列島の最北端択捉島から最南端南沖ノ島までの距離とほぼ同じである。大型の渡り鳥が、自身の力のみでこれだけの距離を飛ぶというのは何とも過酷な旅だと思う。

しばらく編隊を眺めていると順次先頭を交代している。V字編隊（雁行飛行）は、先頭の鳥が羽ばたくことで生まれた上昇気流が後方に向かい、後ろを飛ぶ鳥たちはこの気流に乗ることで自然に身体が持ち上がって楽に飛ぶことができるらしい。

先頭の鳥は、矢面に立ち気流の恩恵は受けられないので大きな負担がかかるが、これを繰り返すことで、大きな渡り鳥は単独で飛ぶよりはるかに長い距離を飛ぶことができるという。

ヨーロッパの航空機メーカーのエアバス社は、2021年に2機の航空機を使用して渡り鳥の編隊飛行の有効性を検証する長距離フライトを実施し、後方の機が6トン以上の二酸化炭素排出量の節約と5%以上の燃料節約ができる可能性があることを確認したと発表した。運用可能性が実証されれば2025年ごろをめどに実用化にこぎつけたいという。渡り鳥の習性が経済性や環境を意識した研究の対象になるとは驚きである。

今は、後方の鳥と同じように穏やかな時の経過に身を委ね翼を休めている。

エネルギーを充電したら今度は何にチャレンジしようか。人生100年時代、まだまだ老いに負けてはいられない。



第28回秋田市現職・退職校長会

教育懇談会

日時…令和5年11月8日(土) 14時

会場…協働大町ビル 6F 千秋の間

コロナ禍で中断され4年ぶりの開催となった。谷村格秋田市中学校校長会会長と高橋一郎秋田市退職校長会会長から挨拶があった。引き続き、沓澤徹秋田県教育庁中央教育事務所所長と長谷川庫之秋田市教育委員会教育次長から来賓祝辞があった。

その後懇談会が行われ、「学校現場の課題と取り組み」を協議題にしてグループ協議が行われた。現職の校長先生方からは、今かかえている学校現場の課題、悩みについて紹介してもらい、退職会員からは、現職の頃のみや成功例、失敗例について語ってもらった。各校長先生からは、不登校の増加や学校現場の多忙化、また、若手教員の増加とミドルリーダーの不足、部活動の地域移行が課題として出された。また、どの学校でも、大きな課題として特別支援教育や情報モラル教育について取り組んでいることがわかった。

懇談会終了後は、懇親会が開かれた。飲食を伴う会はしばらくぶりで、情報交換で盛り上がった。



グループ協議から

学校経営も人生も楽しんで



秋田北中学校

佐々木 雄 治

「退職校長会は、現職の校長先生方の応援団です。何でも相談してください。」

秋田北中学校校長室に飾られている歴代校長先生の写真で、毎日お顔を拝見している、退職校長会会長の高橋一郎先生による励ましの言葉で、秋田市現職・退職校長会教育懇談会が始まりました。「学校現場の課題と取り組み」についてのグループ協議では、我々現職校長が、日々直面し悩んでいる学校経営上の諸課題をテーマに、熱い議論が交わされました。普段、学校では吐露できない校長としての苦悩を、素直に口に出すことができる上、それぞれの課題に対して、高い知見と豊富な経験をもとに、的確な助言をいただくことができたこの機会は、たくさんの現職校長に勇気と希望、そして元気を与えてくれたものと感じております。この場をお借りし、改めて感謝申し上げます。

私の所属したBグループでは、生徒数の激減による学校経営方針転換の難しさや、持続可能で風通しのよい職場環境の構築、不登校生徒の急増に対する学校現場での対応状況、発達障害と不登校との関連性とその指導の在り方、そして校長として役職定年を迎えた後

の人生設計など、とても多岐にわたる話題について、難しい内容ではありながらも、終始笑顔で和気藹々と協議を行うことができました。どんなに困難な事案であっても、チームで対応し、いつでも相談できる雰囲気づくりを大切にしていくこと、そして校長自身が学校経営を楽しむと同時に、自分の人生も楽しむことが重要だと教えていただきました。何事にも動じず、いつも冷静に、職員には笑顔で対応するなど、校長としての心構えを肝に銘じると同時に、自分の心に少しでも余裕を持って、今後の学校経営にあたっていきたいと思えます。

これまでも、これからも



泉小学校

畠山 勇 人

4年ぶりの開催となった秋田市現職・退職校長会教育懇談会では、これまでお世話になったたくさんの方の校長先生方にお会いすることができました。

一緒にお話をして、校長先生方と同職したその時々懐かしい記憶が蘇ってきました。振り返ると、これまで自分は多忙な中にも、やりがいと誇りをもって勤務することができたように思います。多くの先生方との出会いに感謝するとともに、自らが校長となった今、職員がやりがいや充実感を感じるような学校づくりに努めていきたいと改めて思いました。

懇談会では、感染症や自然災害への対応、不登校児童生徒や特別に配慮を要する児童生徒への支援の在り方など、各校の校長先生方が抱える多くの課題について考えを共有することができました。

個や地域の実情によって対応が変化し、誰もが完璧な答えを導き出せないでいる課題についても先輩校長先生方は「失敗から話せることはある」と前置きされながら教えてくださいました。

多くの経験や知識に基づいた助言は、私にとって大きな励みしや支えとなりました。特に若手教員の成長を学校全体の充実感につなげるといったお話は、全職員のやりがいにつながる興味深い内容で、人材育成は全職員の役割であるということを再度、確認することができました。

退職された校長先生方には、これまでも多くをご教示いただき、現在に至っておりますが、この度の懇談会に参加し、これからもお力添えを頂戴しながら自分自身、成長していきたいと思ったところです。

貴重な学びの機会をありがとうございました。



退職校長会
佐々木 康 二

グループ協議に参加して

懇談会では、小学校3校、中学校2校の現職校長の皆さんに退職校長2名が入るグルー

プ協議に参加した。

自己紹介を兼ねてそれぞれの学校の課題と取り組みについてお話をいただく中で、中学校の校種の違いや学校規模による現状や課題の違いはあっても、不登校・不登校傾向の児童生徒への対応、特別な支援を要する児童生徒への対応、教員の多忙化の解消への対応は共通の課題と認識できた。

不登校・不登校傾向の児童生徒については、それぞれの学校のいろいろな事例と対応例が出されたが、それぞれの児童生徒の家庭環境の把握と学校での居場所づくり、そのための関係機関との連携や地域からの情報収集など、それぞれの子ども状況に応じたきめ細かな対応の必要性を再認識した。

特別な支援を要する児童生徒への対応については、不登校への対応と同様の関係機関や地域との連携のほか、複数の教員による対応の必要性などの話が出された。

多忙化の解消については、小規模の中学校での多忙化の要因として部員一名の部があるという話があり、部活動を計画的に減らしていくための進め方なども話し合われた。また、職員の習慣の意識を変えることの難しさは皆感じてはいるものの、勤務時間を短くするための工夫として、始業時刻を早めたり朝の時間を工夫したりするなど、放課を少しでも早くして放課後の時間を確保するためのアイデア等についても意見交換された。

久々に現職校長の皆さんから学校の現状と課題を伺って、子どもたちの健やかな成長のために頑張る現職教員の皆さんに、改めてエールを送りたいと思ったグループ協議だった。

進む学校適正化

少子化の進展に伴い、学校の統合が進められています。令和六年四月には、下北手中学校が城東中学校と統合になります。

今春の閉校に向けて、特色ある素晴らしい取組がありましたので、紹介していただきました。



下北手中学校
石塚 昭 仁

三年生八名と共に迎えた最後の一年。「永遠（とわ）に想う〜未来へ繋ごう 私たちの下北手〜」のスローガンのもと、自分たちを支えてくださった方々への感謝の気持ちと「下北手の一員」として、地域を支えていこうとする志を育むことを目指し、学校・

地域の歴史と伝統を探る「下北手再発見学習（ドローンによる下北手の風景撮影。地域の方による伝統料理「笹巻き」作りと縄ない実習を伴った講話会。旧校舎時代から現在までの学校生活や学校行事の様子・部活動の活躍・校歌や校訓制定にまつわるエピソード等を



まとめたプレゼン作成」を進めてきました。

その成果については、「下北手中学校開校記念式典（十月十五日。一六四名参加）」で披露させていただき

ました。

作成したプレゼンの発表に加え、OB・OGの協力を得た吹奏楽部記念演奏、参列者全員による校歌斉唱と続き、最後は、生徒による決意表明と合唱「未来へ」での締めくくりとなりました。子どもたちの歌声に目頭を押さえる方も見受けられ、「素晴らしい式典だった」「これだけ頑張れる子どもたちが頼もしい」など、ありがたいお言葉も多数いただきました。学習開始から成果の披露までの一連の機会は、間違いなく子どもたちを大きく成長させるものとなりました。

式典後の夕方、正門付近に設置した閉校記念碑の前で、小さいお子さんに何かを語りながら、記念に写真を撮る若いお父さんの姿を見掛けました。本校は三月で閉じられますが、あ



ときの若い親子のように、この地に「下北手中学校」が存在したという事実が、世代を超えて「永遠（とわ）」に語り継がれていくことを心から願っております。



交流のとびら

ロシアのウクライナ

侵略に思うこと



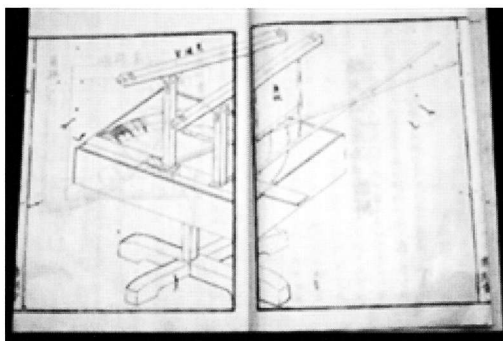
松淵 眞洲雄

ロシアのプーチンによるウクライナ侵略は3年を迎える。便乗したのかイスラエル軍がハマス撲滅を口実にパレスチナ人をせん滅しようとするを進めている。

さて、18世紀後半ロシアの領土侵略・植民は樺太、北海道、千島列島にみられた。慌てた幕府は近藤重蔵を派遣し択捉島に「大日恵土呂府」の標柱を立てさせた。伊能忠敬には蝦夷地を測量させた。1804年ロシアの使節レザノフは通商を求めるも、幕府の引き伸ばし作戦により長崎に7か月逗留した。1806年ロシア人が樺太のアイヌ集落を襲撃した。翌年幕府は西蝦夷地を直轄地とし、同年津軽・南部両藩へ蝦夷地への出兵を命じ、のち秋田・庄内にも命じた。秋田藩主義和は書状を見るや即刻手を打ち、兵士600人が函館の浜辺に勢ぞろいした。

此のころ秋田藩士に吉川忠行がいた。和歌の道をよくする吉川忠孝を父とし1799年に生まれ、久治と称した。父忠孝から和歌の手ほどきを受けるも、8歳で父を失う。1808年、久治は10歳で藩主義和の近侍として仕え、義和から忠行の名を授けられるほど期待された。成人後、和歌の研究書や、歌

集のほか『測量器図解』を著し、幕命を受けた藩の依頼で『海岸絵図』も作成した。息子忠安に家督を譲ることを考えた1858年、和歌を教える名目で屋敷内に若者を集め、国学を教え惟神館（かむながらのやかた）と名付けた。小銃や大筒、火薬もつくり、息子忠安は砲術所に発展させた。国学に目覚めたのは20代のころから平田篤胤との交流があったためだろう。『測量器図解』は佐竹家の遺品を所蔵する千秋文庫（東京都九段）にあり、「距離を測る機械とその使用方法の説明書」である。命中率を高めて砲弾・火薬の節約からも、海上の軍艦までの距離測定は重要である。一般的に三角形において一辺とその端の両角を知ると高さがわかるが、三角関数表をみて計算する必要がある。距離測定機本体から離れた場所に敵軍艦の角度測定の補助機を定め置いて、角度を測り、知らせを受けてその角度を本機で操作して、敵艦船との距離を測る装置である。海岸防備のため土崎湊など数カ所に砲台を築いた。八森、北浦、船越、新屋などに配置された新家と呼ばれる新採用の武士には、大砲の操作を教授した。



吉川忠行の発明した「距離測量器」



恩師の死を悼む

佐々田 亨 三

元秋田大学学長新野直吉先生が一月十七日、お亡くなりになりました。学生時代、附属中、県立博物館等で指導を賜った者として、深い悲しみと、惜別の思いをもって、ご家族とともに「葬送」させて頂きました。

十二月の初め、玄関先でお話をしたのが最期となりました。残念至極です。しかし、先生は享年百歳という天寿を全うされました。考えられない程の多くの著書、共著、論文、監修等、そして役職をこなされ、さぞかし満足されて、「僕はこれで失礼するよ」と、黄泉の国に旅立たれたことと思います。ただ先生のことで、早速、然るべき相談をして、講話内容や論文等を練る準備をしているものと思いますが、今はゆっくりお休みください、と祈るばかりです。ここで思い出を少し記してご供養にしたいと思います。

先生の日本史概論は毎時間が新鮮で、わくわく感がありました。歴史事象からの結果と影響を基に、意味や位置付け、価値を解き明かし、人物や史実を相互関連させて、物語のように感じることがありました。先生は時として、羽織袴姿で講義され、その風格は正義感に溢れ、堅忍不拔の精神を漂わせ、まさに米澤藩小国郷出身、武士の魂を持った語り口で私共を魅了しました。懐かしさで一杯です。先生の講義や研究論文等での「フラスコ状ピット」「斑状文化」「戦中派」「環日本海文

化」等は先生が特許のように編み出した用語でした。先生の文献と実証に基づいた国造論や、渤海国とかかわる「北の海みち」の提唱は国史に燦然と輝く業績と思います。

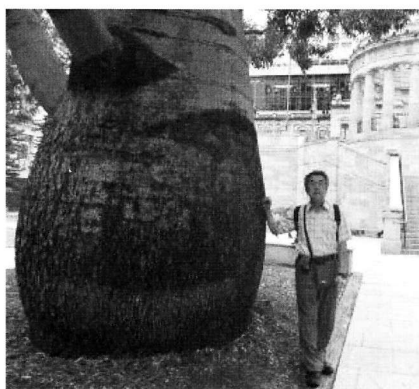
先生編纂・執筆の「日本地名辞典秋田」の総説は先生が秋田県の風土と県民に寄り添い心血を注いでくれた史誌・史観からの提唱で私にとっては「歴史は現代史である」ことを強く再認識させて頂きました。

ふるさと教育の定本「ふるさと秋田の学び」の名付親です。サブタイトルの「出会い・発見・感動」は、学びを継続する人間の心の働きの導きのキーワードについての議論を土台として命名したものです。

オーストラリアで

小笠原 幹 朗

長女がオーストラリアのブリスベンに住んでいる。昨年7年ぶりに夫婦で訪れた。70代も後半に入り、娘夫婦や、お世話になった知り合いを訪ねて、ご挨拶をしておこうということでもある。



ANZAC 広場のボトルツリー

娘が留学したときに居候させてくださった恩人たちを訪問した。また、食事を一緒に食べた人たちもいる。

いろいろな体験もした。ブライビー島の砂浜では、金属探知機を使ってコインやアクセサリを探している人を初めて見た。「見つかったか」と聞くと、「ナッシング」といって袋をひっくり返して見せた。

タンブリン国立公園の「セント・バーナードホテル」というところでランチを食べた。代々、セントバーナード犬を飼っているホテルで、生後7か月のすでに巨大な子犬と記念写真を撮った。

ブリスベンは、2032年のオリンピック開催が決まっている。この街は意外にも坂が多い。まるで映画で見るサンフランシスコの街路のようなアップダウンがある。もちろんカーチェイスはしなかった。

滞在中一番強く印象に残ったのは、女手ひとつで二人の子どもを育てあげた知り合いの女性のお話だった。

「10歳になるまで、仕事が多かったけれど、政府の援助で育てることができた。」「その子が薬学部に入るとき、言っちゃったの。オーストラリアだから大学にいけるんだ。日本だったらあなたは行けなかったよ、て。」

72歳になる彼女は、2週で1097ドル（10万円強）の年金をもらっている。年間では、270万円だ。夫婦二人でもらう人たちだと、400万円にはなるといふ。しかも、税財源で賄われている。日本では、40年間払い込んだ国民年金の支給は、月6万6千円、年間で

80万円に達しない。ところ変われば、社会制度は変わる。

調べてみると、英連邦下にあった1909年に、年金制度ができた国のひとつであるという。昔、イギリスが「揺りかごから墓場まで」の福祉の国だと教わった覚えがある。

日本の衰退が言われて久しい。戦後作られたさまざまなシステムにはころびが見える。それは身近な地域でも明らかではないか。

明治の初めに、きわめて謙虚に、そして急速に欧米諸国から文物・制度を取り入れた日本である。今こそ、もう一度、学び直しが必要なのではないかと考えさせられた。



元に戻れるか

「コミュニティー

乳井 康雄

秋田市自然科学学習館の館長に三年、太平中学区の学習相談員を五年勤め、その間人権擁護委員を続けてきましたが、七十四を越えたのを機会に退くことにしました。人権擁護委員としての九年間、市内・県内で活動し、主に子どもの人権擁護を中心として市内の小中学校をまわって人権啓発活動をしてきました。人権標語や人権作文コンテストの募集活動に携わり、県内の多くの方々と交流することができたことが印象深かったです。児童生徒数の減少に伴って応募点数が減少傾向にある中、なんとか最小限に止めることができたのも、同じ仲間の皆様のご協力のおかげ

と思っています。しかし、活動後半にコロナ禍に遭遇し、全国のほとんどの活動が一時停止してせつかく積み上げた活動がゼロに戻ってしまっただけが残念です。子ども園にもでかけて活動していたのですが、玄関先で啓発パンフレットを渡すのが精一杯で、空虚な気持ちの続く毎日を過ごしたことが心残りでした。私どもOBにとってはかつての仲間、諸先輩と飲食を共にしながら教育を語り、年金を嘆くことも大きな楽しみであったのですが、それも叶わず、唯一の絆も断ち切れてしまいました。私も昨年六月、第五類に指定直後に感染してしまいました。これまで経験のない三十九度近くの発熱が三日間続き、ゼリーものを通らない症状に命の危険を感じました。その後以前のように同窓会、同級会、同好会など人的交流が復活するかと思いきや、インフルエンザの追撃に見舞われ、旧交を復活させようとしていた我々には落胆の限りです。齢を重ねるにつれて元のようなコミュニティーに戻す気力、体力、企画力が伴わなくなっただけが悔しいです。



事務局から

○令和6年度 年間行事予定

・秋田市退職校長会

監査	令和6年4月18日(木)
理事会	4月27日(土)
総会	4月27日(土)
現職・退職校長会教育懇談会	11月16日(土)

祝叙勲

・瑞宝双光章(高齢者叙勲)

(敬称略)

岩見誠夫	秋田市広面
石黒善雄	秋田市浜田
倉橋保夫	秋田市仁井田
佐良土惇	秋田市東通
荻原幸美	秋田市東通

謹んでお悔やみ申し上げます

令和6年3月10日現在(敬称略)

・鈴木満支朗	令和5年7月15日	ご逝去
・大島新助	令和5年7月20日	ご逝去
・長谷川仁司	令和5年12月2日	ご逝去
・五十嵐久雄	令和5年12月13日	ご逝去
・渡部菊治	令和6年1月6日	ご逝去
・神田武	令和6年1月22日	ご逝去
・伊藤勲	令和6年2月5日	ご逝去

「楽しい研修会」のご案内

来年度も「楽しい研修会」を後日ご案内します。多数のご参加をお待ちしております。